

統合新校で進めていきたいと考えている教育内容について

平成20年度にスタートする新校は、杉五小と若杉小の児童、保護者、同窓生、地域の様々な願いを実現する学校となることはもとより、本区政始まって以来の初の統合校ということで、杉並のこれからの教育の方向性を示すプロトタイプとしての役割も求められております。

したがって、その学校像と教育理念には、これまで両校が積み重ねてきた多くの成果を受け継ぎながらも、区の教育ビジョンの具体的な姿を反映していくことが必要です。具体的には、区が示している「知・徳・体・食」育の4本柱との関連を踏まえつつどう教育目標を設定するか、また、学校運営に地域の声をどのように反映していくシステムを考えるか等の課題があり、今後、教職員連絡会で検討して年内には協議会に報告したいと考えております。

現段階では、杉並区教育ビジョン推進計画の「2 自立と責任のある学校をつくります。～“自ら立ち、自ら律する”学校づくりをすすめます。」を受ける形で、次のように共通の実践に取り組んでいます。

学力・体力の向上～一人ひとりを大切にすきめ細やかな学習指導

- ・ 算数科における習熟度別学習の実施（6月7日合同研究会～杉五小4年）
- ・ 夏季補習教室の開催（区の学力調査結果を踏まえて）
 - 杉五小～算数教室、英語教室（共通）
 - 若杉小～特別教室（国語）、英語教室（共通）
- ・ 教科担任制の試行
 - 杉五小～高学年の国語・社会・理科・家庭・体育
 - 若杉小～全学年での音楽・図工、高学年での家庭

豊かな人間性の育成～キャリア教育の充実

- ・ 年間指導計画の策定（8月中）
- ・ お店番体験（3・4年生）の両校での実施（2学期）
- ・ 「とびだせ！ガッテン」プログラム（5年生）の合同実施（2学期）

「とびだせ！ガッテン」プログラムとは

情報化社会に生きる子どもたちが、パソコンを用いた情報収集と分析により一般消費者のニーズを把握した後、ターゲットをにらんだ商品開発を行い、地域の専門家による指導を受けながら商品販売をするという一連の活動を通して、失敗を恐れず、創造力を高めながらチャレンジ精神を発揮するという生き方教育で、通商産業省の起業家教育促進事業の指定を受けた(有)「マイトイ」の実践型プログラムです。

学校の教育力の向上～小中一貫教育の推進

- ・ 区が推進する小中一貫教育の英語プログラム（松香フォニックス提供）の実施
- ・ 年間指導計画と平成 20 年度に向けての移行計画の策定（8月中）
- ・ 9月以降、JET（日本人英語指導者）を活用して月に2時間程度の取り組みを検討中

「フォニックス」の英語プログラムとは

「フォニックス」はもともと、英語圏の子どもたちが本を読めるように開発された指導法です。日本の子どもたちが「あいうえお」から学びはじめるように、英語圏の子どもたちはまずフォニックスを学びます。日本人である私たちにとって、フォニックスは、カタカナのふりがなや発音記号に頼らずに英語を読めるようになるための手段となるものです。

教育環境の整備・充実～学校安全対策の充実

- ・ CAP の合同実施（7月4日～3年、13日～6年・保護者）

「CAP」とは

CAP（Child Assault Prevention）は子どもたちが、いじめ、虐待、誘拐といったさまざまな暴力から自分を守るための、アメリカで誕生した教育プログラムです。日本には1985年に紹介され、現在では100あまりのNPOが活動しています。今回は、CAP 世田谷に協力を依頼して、ロールプレイを通したワークショップを行っています。

以上の他、次のような新校の学校経営に関わる内容も検討する予定です。

地域との協働に向けたしくみの整備・充実～土曜日学校の運営

- ・ 現在、杉五小で実施している「はっぴいサタデー」拡充の可能性

学校経営力の向上～第三者評価（診断）の実施

- ・ 今年度から若杉小で取り組む学校評議員を活用しての学校評価の可能

参考

杉並第五小学校・若杉小学校の統合に向けての提言

杉並第五小学校長 東海林 孝吉

若杉小学校長 中 島 豊

統合に向けては両校で 4 年間を見越した総合的な計画について情報の共有化を図り、双方の教育課程を融合して、統合となる平成 20 年度までの 2 年間で新たな体制づくりを進めていかななくてはならない。

来年度、共通の教育課程を編成するとなれば、本年度は、行事を合同で実施することに加えて、まずは教育課程の内容や児童の実態、現状の課題といった情報を早急に共有して、互いの学校の状況を十分に把握する必要がある。

その上で区の教育ビジョンに則りつつ、その解決を目指す新規プロジェクトに取り組む中で統合の準備を進めることが大切である。

なぜならば、これは両校に限ったことではないが、学校には当然多くの学校運営・経営上の相違点が存在し、それぞれの教育課題や対策も多様であるため、統合に向けては、計画的にまた戦略的な平成 20 年度に向けての体制作りが求められるからである。

そのためには、両校が歩み寄って対処的にそれらの課題を一つ一つの溝を埋めていくことも勿論重要であるが、教育の質を高め、今、杉並区が求めている教育課題を思料するならば、その解決につながるプロジェクトを共同で立ち上げながらベクトルを揃え、共通の目的意識をもって新しい教育の創造に取り組んでいく、積極的な姿勢が不可欠である。

統合する学校は、子どもたちばかりではなく、教職員や学校を核とする地域や保護者の夢と希望を育むものでなくてはならないと考える。区内で初となる事業への取り組みには多くの時間と労力を伴うのは目に見えているが、好むと好まざるとに拘らず両校の教職員はそうせざるを得ない状況に置かれている。

それならば、若杉と杉五を取り巻く全ての人々で知恵を出し合い、それぞれの役割の中で創意工夫をして力を結集するよう努めて、日本一の学校を実現しようではないか！